

化石研 ニュース

No.117 2013/05/11

編集・発行:化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第31回化石研究会総会・学術大会 プログラム

- 共 催：下仁田町・ジオパーク下仁田協議会・下仁田自然学校
- 会 期：2013年6月1日（土）・2日（日）
- 会 場：1日・・・下仁田町文化ホール（群馬県甘楽郡下仁田町下仁田142）
2日・・・下仁田町公民館（文化ホールの隣です）
- 日 程：
 - 6月1日（土） 13時～（下仁田町文化ホールにて／詳しくは2、3ページ）
 - シンポジウム
「ジオパークにおける化石について～地域の宝をどのように残していくか～」
 - オプションツアー ジオサイト見学「下仁田層の化石サイト」
 - 懇親会（町内・鍋屋さんにて） 18:30～（事前申込みが必要）
 - 6月2日（日） 10時～15時20分（下仁田町公民館にて／詳しくは4ページ）
 - 一般講演（口頭発表・ポスター発表）
 - 総会



ねぎ坊 & にやくっち

<1日目> 6月1日(土) 13時~

シンポジウム 「ジオパークにおける化石について」

~地域の宝をどのように残していくか~

- 13:00 (開会)
13:00~13:10 挨拶 金井康行(下仁田町長・ジオパーク下仁田協議会長)
13:10~13:20 趣旨説明 真野勝友(下仁田ジオパーク)
13:20~14:10 基調講演 「世界と日本のジオパーク活動」
渡辺 真人(産業技術総合研究所地質標本館・日本ジオパーク委員会事務局)
14:15~14:40 事例報告① 「天草御所浦ジオパークと化石との関係」
鶴飼 宏明(天草御所浦ジオパーク)
14:40~15:05 事例報告② 「白山手取川ジオパークにおける桑島化石壁を利用した活動」
日比野 剛(白山手取川ジオパーク)
15:05~15:15 (休憩)
15:15~15:40 事例報告③ 「戸台の化石」保存会・活動の紹介
北村 健治(「戸台の化石」保存会会長)
15:40~16:05 事例報告④ 「ジオパーク秩父と化石を使った教育」
吉田 健一(秩父ジオパーク)
16:05~16:30 事例報告⑤ 「恐竜センターと体験学習プログラム」
久保田 克博(神流町恐竜センター)
16:30~17:00 総合討論
17:00 (閉会)
17:00~17:30 オプションツアー ジオサイト「下仁田層の化石サイト」見学
18:30~ 懇親会(鍋屋さんにて・詳細下記)

※ 運営委員会(役員のみ)を、1日(土)11時~12時45分に行います。
役員の方には、詳しい会場などについて、後日連絡いたします。

<懇親会> 事前申込みをお願いいたします。

会場： 鍋屋
時間： 18:30~20:30(予定)
会費： 4000円

懇親会への参加を希望される方は、5月27日(月)までに、
下記申込先まで電子メールもしくはFAXでご連絡ください。

<申込先> 関谷友彦(下仁田町自然史館[ジオパーク推進室])
メール： geopark@town.shimonita.lg.jp
FAX： 0274-67-5315



◆◆シンポジウム・講演要旨◆◆

基調講演 「世界と日本のジオパーク活動」

渡辺 真人（産業技術総合研究所地質標本館・日本ジオパーク委員会事務局）

ふるさとの宝の値打ちに気付くことが、ふるさとの宝を守る第一歩です。これまで多くの人が宝だとは思っていなかった地形や地質の面白さと素晴らしさに気付くことからジオパークは始まります。自分たちの宝に誇りを持ってそれを守り、その良さを伝えることで、多くの人がふるさとを訪れ、ふるさが活性化します。このようにして、地域の宝を保全することが地域を活気づける最も良い方法になるのがジオパークの活動です。世界と日本各地のジオパークに住む人々の活動を紹介します。

事例報告① 「天草御所浦ジオパークと化石との関係」

鶴飼 宏明（天草御所浦ジオパーク）

天草御所浦ジオパークの島は、恐竜をはじめとする多種多様な化石が産出することから「化石の島・恐竜の島」と呼ばれている。ジオパークを背景に、島での化石の活用と保護、それに関わる人の活動などを紹介する。

事例報告② 「白山手取川ジオパークにおける桑島化石壁を利用した活動」

日比野 剛（白山手取川ジオパーク）

白山手取川ジオパークの見どころの一つ桑島化石壁は、日本の地質学発祥の地とも言われるほど古くから研究がされている。近年では産出化石に多種多様な動物化石を加え、中生代白亜紀前期の生態系を考える上でも、世界的に重要な場所となっている。最近では、主要ジオサイトとして化石調査体験などをジオパーク活動とからめ、情報発信につとめている。

事例報告③ 「戸台の化石」保存会・活動の紹介」

北村 健治（「戸台の化石」保存会会長・〔東京都青梅市在住〕）

「戸台の化石」の概要と研究史・保存会発足・組織の名称・伊那谷自然友の会・運営委員会・採集試料の標本化と保管・収蔵施設の確保と管理・家族連れ学習会の継続・地域の理解と協力支援・発足 25周年記念事業・化石憲章の採択・南ア(MTL)ジオパークと係わってなど、保存会発足の前後・その後の活動内容などを紹介します。

事例報告④ 「ジオパーク秩父と化石を使った教育」

吉田 健一（秩父ジオパーク）

多くの研究者・学生が訪れる地質学発祥の地「ジオパーク秩父」では、学校教育・社会教育や資料館等への支援、ジオツアーの企画と受け入れ、案内書発行等に取り組んでいる。

多様な地質から多種類の化石が見つかる。採集は河川敷や転石が主。個人が所有する化石の活用を図っており寄贈が増えている。

事例報告⑤ 「恐竜センターと体験学習プログラム」

久保田 克博（神流町恐竜センター）

神流町恐竜センターでは町内に分布する下部白亜系の山中層群瀨林層において、化石発掘体験を開催し、年間約7500人が参加しています。また2009年には県の協力を得て、恐竜の足跡化石を含む漣岩の保護活動を行ないました。今後は町内から産出する貴重な化石を町の財産と考え、保護する方向で検討を行なう予定です。

<2日目> 6月2日(日) 10時~15時30分

総会ならびに一般講演(口頭発表・ポスター発表)

10:00~11:20 一般講演(1) 口頭発表(午前の部/○-1~4/発表15分・質疑応答5分)

- 10:00~10:20 ○-1 ヒトの永久歯における歯髄結石の組織構造と元素組成に関する
進化学的考察・・・高橋正志・後藤真一
- 10:20~10:40 ○-2 象牙質の成長線形成と体内時計の情報伝達分子メラトニンの関連
・・・三島弘幸・門田理佳・井上昌子・服部淳彦・鈴木信雄・田畑純・
寛光男・松本敬・里村一人・見明康雄
- 10:40~11:00 ○-3 長野県安曇野市田沢鉱泉付近の中新統青木累層産生痕化石群集
・・・小幡喜一・堀内 義・小池伯一・石田吉明
- 11:00~11:20 ○-4 動物起源のパリノモルフについて—土壤動物化石研究の可能性—
・・・楡井 尊

11:20~11:25 (休憩)

11:25~12:10 総会

12:10~13:30 (昼食)

13:40~14:00 一般講演(2) ポスター発表(P-1~2) コアタイム

- P-1 群馬県中之条町の沢渡層(中新世)から産出した褐藻類化石
・・・高桑祐司・唐澤寛・吉崎誠
- P-2 地質遺産を活かした町づくり —下仁田ジオパーク—
・・・ジオパーク下仁田協議会

14:00~15:20 一般講演(3) 口頭発表(午後の部/○-5~8/発表15分・質疑応答5分)

- 14:00~14:20 ○-5 三重県伊賀市服部川産ワニ化石の発見・調査史
・・・谷本正浩・北田稔
- 14:20~14:40 ○-6 放射能汚染した水田土壌と生物における Sr, Cs, Np, Pu の分布
・・・田崎和江・竹原照明・石垣靖人・中川秀昭
- 14:40~15:00 ○-7 イチョウの葉の形態から進化過程を考える — 理科教材への活用—
・・・松本みどり・成田士彦
- 15:00~15:20 ○-8 静岡県浜松市の中部更新統佐浜泥層産埋もれ木の堆積環境
・・・吉川博章

15:20 (閉会[予定])

閉会后、希望される方は、会員の自家用車で移動し、下仁田町自然史館を見学可能です。

● 6月2日の昼食について

- ・事前申込みで、お弁当(500円)が注文できます。5月27日までに申し込んでください。
申込先は、懇親会のもと同じです。
- ・また、下仁田駅そばに食堂が多数ありますので、そちらで昼食を食べられます
(当日、マップを配布予定)。

※ 最寄りのコンビニエンスストアまでは、徒歩20分くらいです。

● 下仁田までの交通アクセス
について

右の図を参考にして、
お越しください。



下仁田町までのアクセス

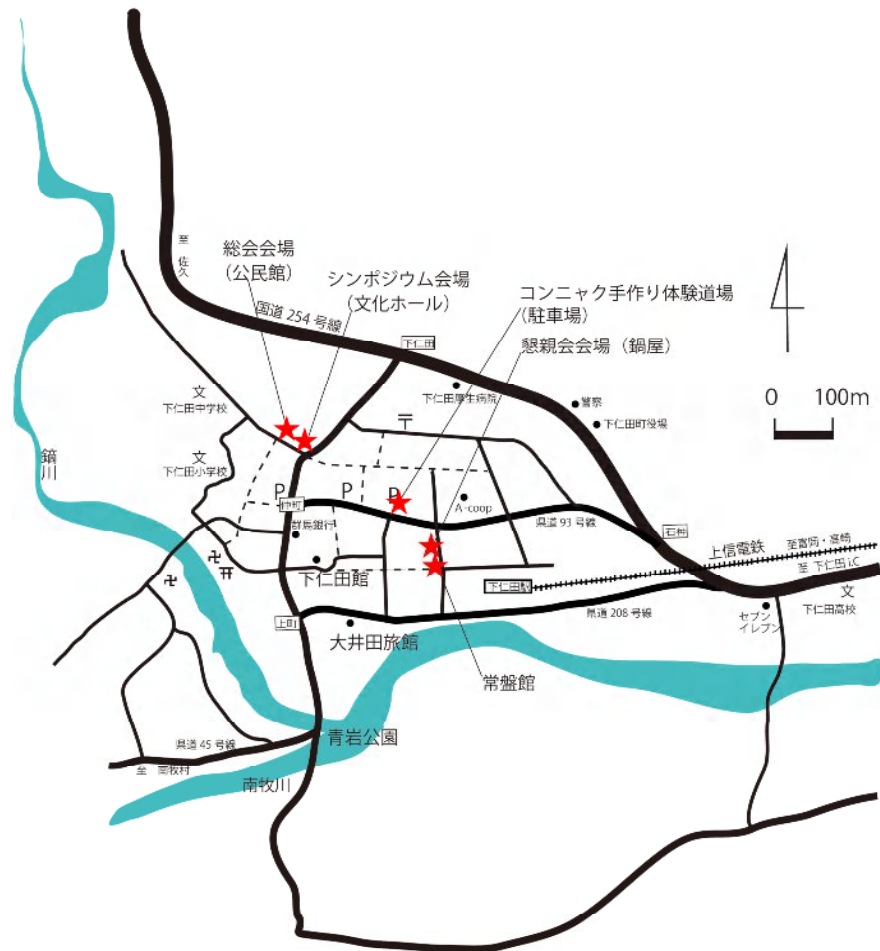
●自動車

東京(練馬)	関越自動車道 60分	藤岡JCT	上信越自動車道 20分	下仁田I.C.
新潟	関越自動車道 120分	藤岡JCT	上信越自動車道 20分	下仁田I.C.
長野	上信越自動車道 10分	更埴JCT	上信越自動車道 70分	下仁田I.C.

●電車で

東京(上野)	上越新幹線 50分 JR高崎線 100分	高崎	上信電鉄 60分	下仁田(終点)
新潟	上越新幹線 70分 JR上越線 300分	高崎	上信電鉄 60分	下仁田(終点)
長野	長野新幹線 50分	高崎	上信電鉄 60分	下仁田(終点)

● 会場周辺
のマップ



- ※1 地図上で、点線で示してある道は、車が通行できません。
- ※2 お車でお越しの際は、車の駐車は「コンニャク体験道場」へお願いします。

● 下仁田での宿泊について

旅館名	電話番号	1泊朝食付き	ホームページ
常盤館	0274-82-2216	5,250 円	http://www.shimonitakan.com/
下仁田館	0274-82-2031	4,500 円	http://tokiwa.shimonita.jp/
大井田旅館	0274-82-5906	4,500 円	http://www.shoko.shimonita.ne.jp/shop/ooida-r.html

※1 個室での対応ができない場合は相部屋とさせていただきます。

※2 いずれの旅館も懇親会場（鍋屋様）から徒歩2分～5分程度です。

※3 なお、上信電鉄への乗換駅である高崎駅（下仁田までの所要時間・約1時間）周辺には、ビジネスホテルが多数あります。

>>> 書籍の紹介 <<<

「氷河期の極北に挑むホモ・サピエンス・マンモスハンターたちの暮らしと技-」

G.A. フローバチェフ・E. Ju. ギリア・木村英明著（木村英明・木村アヤ子訳）
雄山閣，B5判 208頁. 4800円+税 2013年3月発行. ISBN978-4-639-02264-0

本書は第Ⅰ部「牙と角のわざのひみつ」と第Ⅱ部「極寒に挑む旧石器時代の人びとと技」から構成されている。第Ⅰ部では、2人のロシアの考古学者による石器・牙・角などの出土品の詳細な研究とともに、マンモスハンターたちの製作技術の実態に実験考古学ともいべき実験法によって解明している力作である。あのように湾曲したマンモスの牙を真直な槍に加工した技術の解明など興味ある内容である。訳者の木村英明氏は、モスクワやサンクト・ペトルブルグ滞在中に著者らと共同研究を実施するなど、親交を深めていたという。その意味からも、木村夫妻はこの著書（ロシア語）の翻訳者として最適で、訳文は極めて読みやすく構成されている。

第Ⅱ部は「北方ユーラシアにおけるホモ・サピエンスとマンモスハンターの起源」という副題に示されているように、北方ユーラシアにおけるマンモスハンターの歴史が、著者の研究成果を含めて見事に描き出されている、次の7章から構成されている。

- 1 極寒の地に足を踏み入れたのは誰か
- 2 旧石器時代における環境と文化の変遷史
- 3 寒さを味方にした人びとーマンモスハンターの文化の成立と展開
- 4 マンモスの骨格住居とマンモスの絶滅問題
- 5 マンモス牙製の槍に守られた少年・少女たち
- 6 氷河時代の“ゼムリュプラホーヂェツィ（踏破者たち）
- 7 終章 マンモスハンターの文化の起源、再論

ネアンデルタールとホモ・サピエンスとは遺伝的繋がりはないとされる最近の遺伝子研究の結果に対

して、著者は北方ユーラシアにおける遺跡の研究からその見解に疑問を提示している。

本書は哺乳類化石の研究者だけでなく、旧石器時代の環境と文化の変遷史、とくにマンモスハンターに関心を持つ多くの化石研究会会員の諸兄姉にお勧めしたい。購入に際しては、著者の木村英明氏のご厚意で、出版社の雄山閣に著者からの紹介として注文すれば、4000円（送料別）で入手できる。

メールアドレス: info@yuzankaku.co.jp / ファックス: 03-3262-6938 (秋山雅彦)

>>> 間島信男のお薦め本の紹介 <<<

- ・お薦め度ランク（ランク付けは間島による）: ★・・持っているも損はない。★★・・普通にお薦め。
★★★★・・特にお薦め。（カッコ内の日付は発行年）

和書の部

* 専門書

1) 『文化系統学への招待—文化の進化パターンを探る—』

中尾 央・三中信宏 [編著]. 勁草書房. 213+ix347p. (2012年5月) ¥3,200円+税.

考古遺物, 写本, 言語, 建築様式など生物でない対象も時間と共に変化する実体として捉え, 生物系統学で確立されてきた系統復元の手法を利用して, その系統関係を明らかにしようとする学問を文化系統学という. 本書は日本語で書かれた単行本としてはおそらく初めてのものである. 各分野から文化系統学の実践例が述べられているが, 写本のように適用が明らかな例と, 編者の意図をどこまで理解して書いているのか理解に苦しむ章もあり, 分野によってかなり温度差が感じられる. しかし, 文化も生物も進化する実体として捉え共通の方法論を模索するというのは科学哲学的におもしろい考えであり, 意欲的な著書といえる. (★)

2) 『学名論—学名の研究とその作り方—』

平嶋義宏 [著]. 東海大学出版会. 347p. (2012年9月) ¥3,200円+税.

新種や新属を命名するときに必要なガイドブックである. 昆虫では新学名をつける機会が多いのでこのような需要があったのかと驚く. 動物命名規約をふまえたうえでの文法的な解説や実例が多く載せられているので, 学名全般についての理解を深めたい人には最適の本である. 実例は昆虫が多いが他の分類群を専門にしている人にとっても役に立つ. 古典語 (ラテン語・ギリシャ語) の語彙集が充実している. 学名に精通するにはラテン語だけでなくギリシャ語の知識も必要なことを知り, また驚く. (★★)

* 一般普及書

3) 『恐竜時代 I—起源から巨大化へ—』

小林快次 [著]. 岩波ジュニア新書, no.716. 170+4p. (2012年6月) ¥940円+税.

ジュニア新書であるが大人でも十分に引きつけられる内容である. 三畳紀の恐竜の起源からジュラ紀の大型恐竜の時代までを最新の研究成果に基づいて紹介している. 著者自身がアルゼンチン, 南極, 中国と海外を飛び回って精力的に発掘を行っている日本の恐竜研究の第一人者だけに, 自らの発掘体験を踏まえた本書は読み応えがあり一気に読了した. 早く『恐竜時代 II』が読みたい. (★★★)

4) 『化石の分子生物学—生命進化の謎を解く—』

更級 功 [著]. 講談社現代新書, no.2166. 236p. (2012年7月) ¥760円+税.

いわゆる古代 DNA や化石 DNA の研究の紹介なのだが、ルイ 17 世の遺体の一部や剥製やミイラまで化石とされるとちょっと違和感を感じてしまう。ネアンデルタール人や恐竜 DNA 騒動についてはよくわかった。原理的な説明にはやや物足りない部分もあるが、概ねわかりやすい。著者はコンウェイモリス (2010) の『進化の運命』の訳者の一人でもある。 (★★)

5) 『【大人のための図鑑】 地球・生命の大進化』

田近英一 [監修]。新星出版社。223p。(2012 年 8 月) ¥1,500 円+税。

地球の誕生から現在までの地球環境の変遷と生物の進化について、2 ページ見開きで 1 項目にまとめ年代順に配列してある。オールカラーのビジュアル本で値段も手頃である。地球史に関する一般教養を高めるにはよい本だろう。 (★★)

6) 『精密立体ペーパーバイオロジー—PAPER BIOLOGY—』

土屋英夫 [著]。飛鳥新社。136p。(2012 年 9 月) ¥2,200 円+税。

著者は新潟県内の高校に勤務する理科教員で。カラー印刷のペーパークラフトの型紙とその作り方からなる。飛び出す細胞、T4 ファージ、ショウジョウバエ、脳アトラス、眼球アトラス、ロバートフックの顕微鏡などの生物学ネタのほかに三葉虫やアノマロカリスといった古生物までである。いずれも立体的でかつ精緻なできばえなので、作製にはかなり時間を要しそうである。しかし、教材としての価値は非常に高い。この本に紹介されたものの一部や紹介されていないものも含めて、著者のホームページで公開されている (<http://www.k4.dion.ne.jp> 「SOIL-SHOP 生物教材製作所」、たぶん「ペーパーバイオロジー」で検索しても引っかかると思う) ので、そちらの方もぜひ見ていただきたい。 (★★)

>>> 事務局だより <<<

■ 2013 年度会費の納入をお願いします

今年度会費について、まだ納入されていない方は、よろしく願いいたします。

※ 昨年の事務局移転に伴い、郵便振替の番号(↓)も新しくなっております。**ご注意ください。**

3 年間、会費未納の方は、除籍となります。

■ 秋山雅彦会員からは書籍の紹介と著者割引のお知らせをご投稿いただきました。そして間島信男会員からは、今回は和書 6 冊をご紹介いただきました。両会員に御礼申し上げます。

他の会員のみなさまも掲載したい記事がございましたら、事務局までご連絡ください。

編集・発行：化石研究会事務局 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付
TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp
ホームページ <http://www.geocities.jp/tepkun/>
郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288
名 称 化石研究会 (カセキケンキュウカイ)

この化石研ニュースは、上記のホームページでも見るすることができます。前号までのニュースも見られます。現在、印刷版でニュースが郵送されている会員の中で、郵送されなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。